

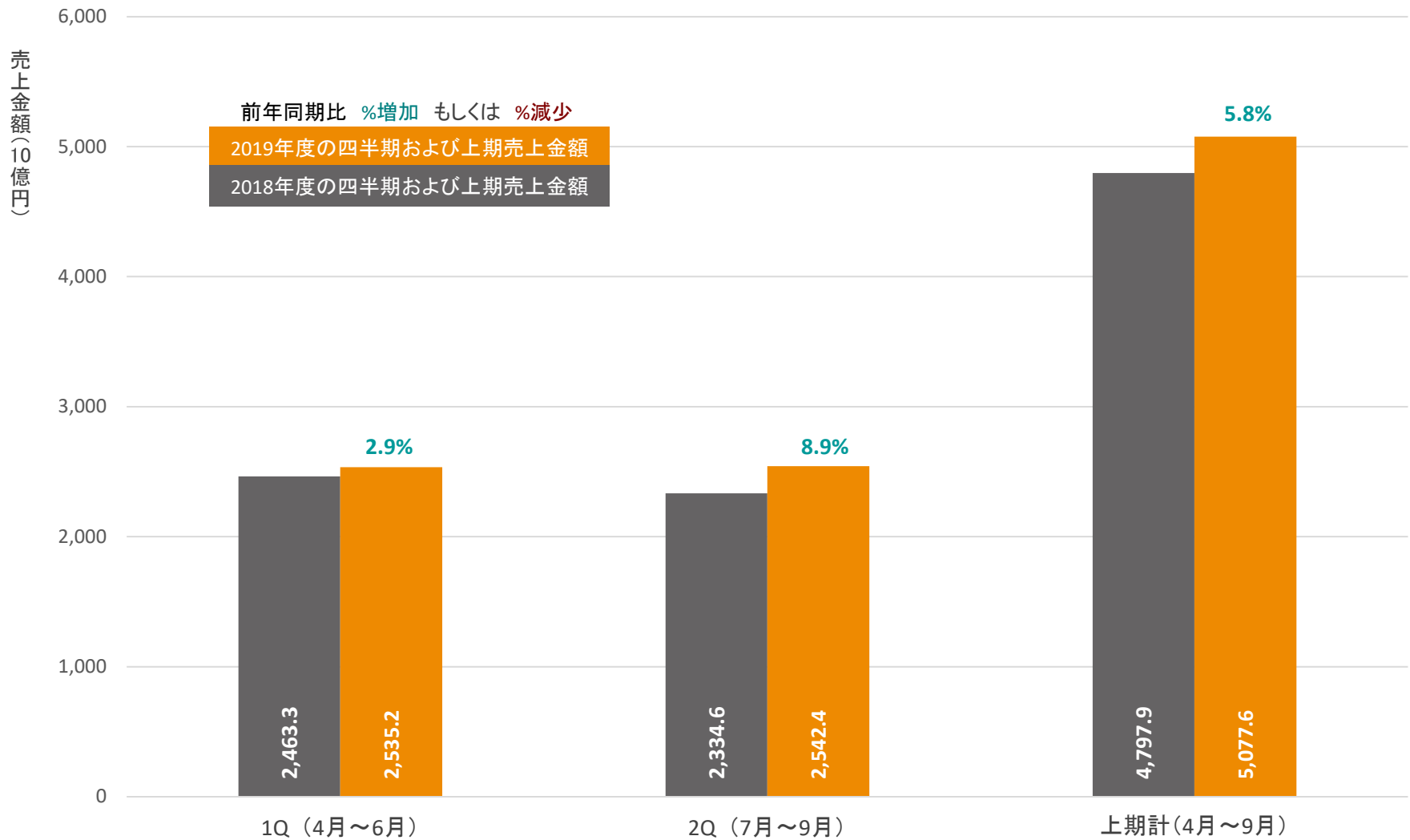


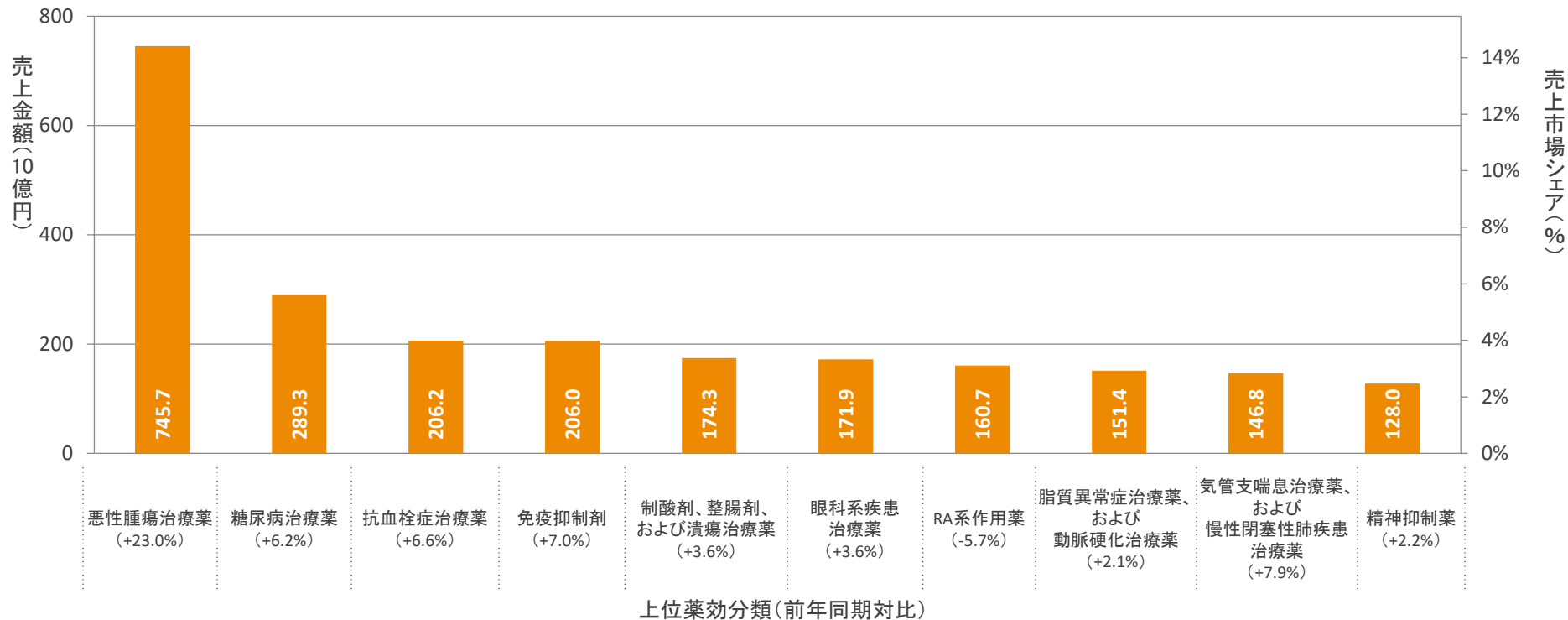
# エンサイス スナップショットデータ

(薬価基準ベース)

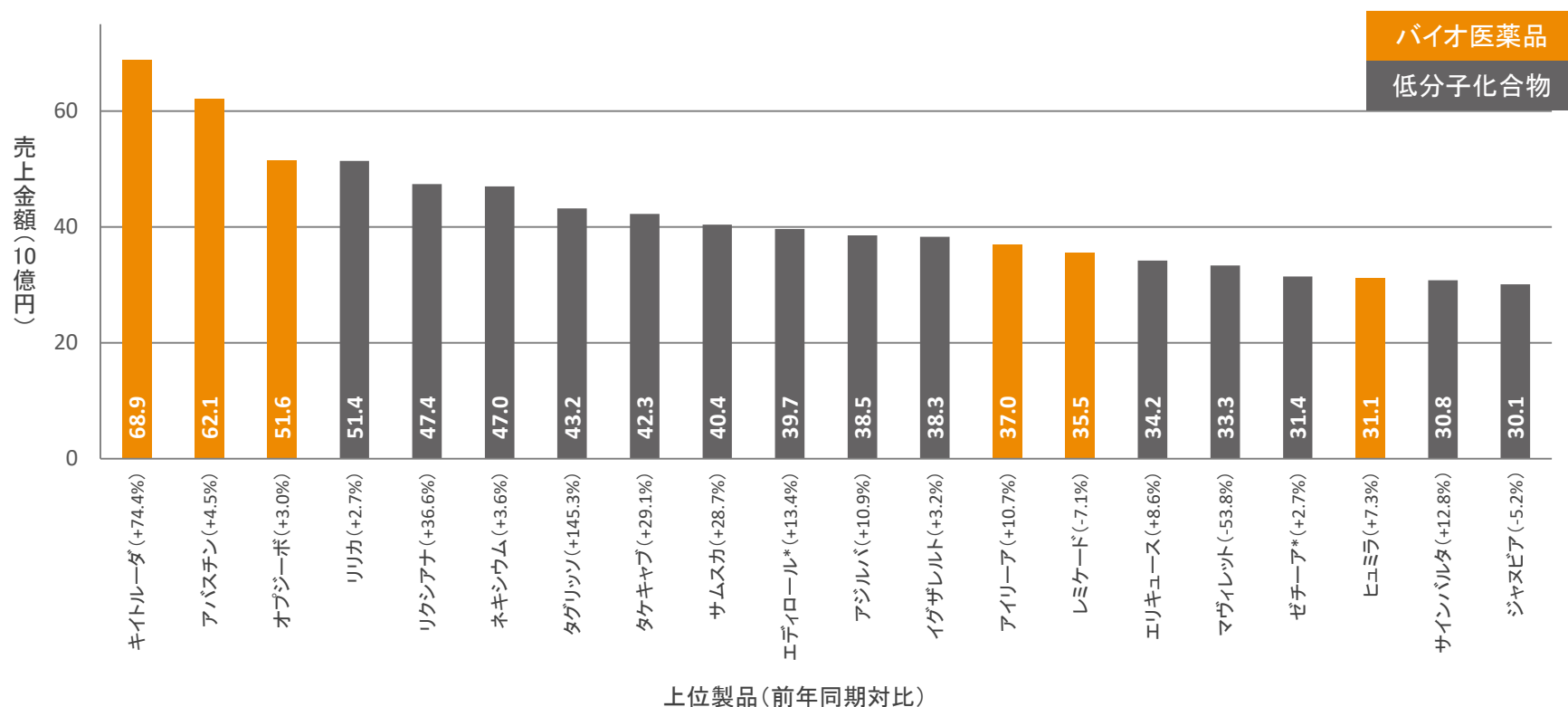
2019年度上期  
(2019年4月～2019年9月)

免責事項:本レポートは、エンサイスが収集した医療用医薬品に関する情報を基礎としてエンサイスリサーチセンターで加工、編集又は推計を行ったものであり、エンサイスは本情報の正確性、網羅性、その他本レポートが一定の内容や品質を備えることを保証するものではありません。





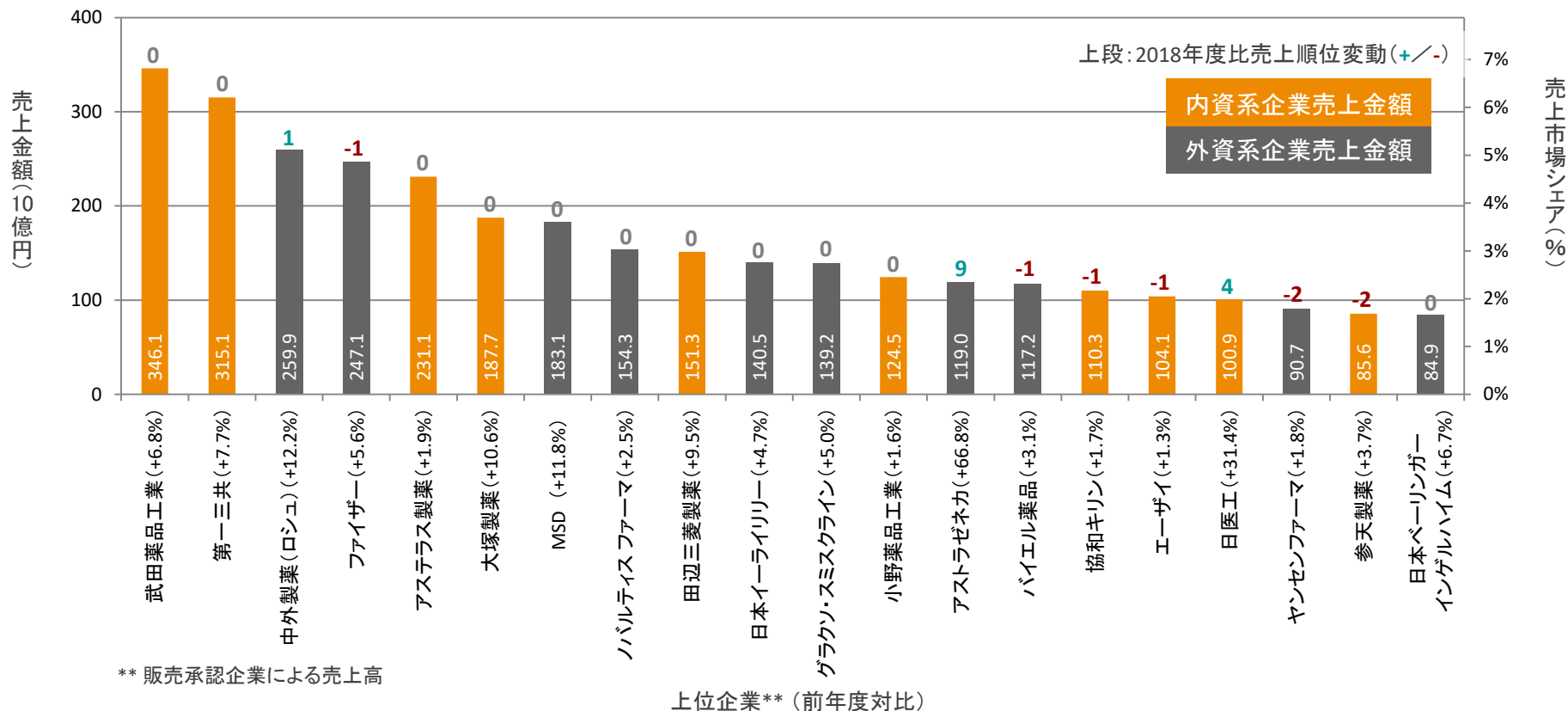
- 上位10薬効分類の売上金額は2兆3,802億円(前年同期比7.9%増)と、医療用医薬品総売上の約46.9%を占めている。
- **悪性腫瘍治療薬(オンコロジー)**:免疫チェックポイント阻害薬(ICI)、キイトルーダ(689億円、前年同期比74%増)、イミフィンジ(141億円、2018年8月販売開始)、およびテセントリク(118億円、131%増)の売上成長が主に寄与し、悪性腫瘍治療薬市場は前年同期比23%増と大きく伸びた。初のICIであるオプジーボの売上は516億円(3%増)であった。
- その他では、タグリツソ(432億円、145%増)、パージェタ(191億円、106%増)、リムパーザ(85億円、231%増)、およびベージニオ(51億円、2018年11月販売開始)が売上成長に寄与した。リツキサンの売上は、2018年1月にバイオシミラーが販売開始されたため、前年同期比43.5%減の83億円であった。
- **RA系作用薬**: RA系作用薬市場の売上は引き続き減少しており、前年同期比5.7%減であった。これは、主に後発医薬品(GE)やオーソライズドジェネリック(AG)の売上増加が原因であった。データ期間に最も売上が減少した製品には、アイミクス(37億円、61%減)、オルメテック(74億円、25%減)、ミカルデイス(62億円、23.4%減)が挙げられる。
- **気管支喘息治療薬、および慢性閉塞性肺疾患治療薬**: シムビコート(237億円、8%増:2019年7月以降、流通・販売はアステラス製薬からアストラゼネカに移管され、その後も成長は堅調)、ファセンラ(58億円、106%増)、ヌーカラ(64億円、70%増)などに牽引され、当該市場は前年同期比7.9%増の成長となった。



上位製品(前年同期対比)

\* 同ブランドによる合計売上金額(局所用剤を含む)

- 2019年度上期の上位20製品の売上総額は8,343億円、医療用医薬品売上総額の16.4%を占めている。
- 上位20製品の売上総額は前年同期と比較して0.2ポイント増加した。これは、主にキイトルーダ(74.4%増)およびタグリッソ(145.3%増)の売上が寄与している。
- 2019年度上期に上位20製品入りした製品(前年同期比ベース)：タグリッソ(第7位)およびサインバルタ(第19位)
- 2019年度上期に上位20製品から外れた製品(前年同期比ベース)：ネスプ(248億円、20.2%減)およびモーラス(285億円、8.3%減)



- 2019年度上期の上位20社の売上総額は3兆2,926億円(前年同期比7.6%増)、市場占有率は64.8%(1.1%ポイント増)であった。
- 上位20社のうち内資系企業と外資系企業の売上比率は約53:47であった(前年同期比率 約54:46)。内資系企業の売上総額は1兆7,567億円(前年同期比6.6%増)、外資系企業は1兆5,358億円(前年同期比8.8%増)であった。
- 上位20社：武田薬品工業および第一三共はそれぞれ第1位および2位を維持し、上位20社中3社が順位を上げた。アストラゼネカは9位上昇、前年同期比66.8%増、主にアステラス製薬より販売権が移管されたシムビコートの上昇維持およびファセンラの寄与による。日医工は4位上昇、エルメッドを完全子会社化したことによる。中外製薬(ロシユ)は1位上昇、前年同期比12.2%増であった。
- 前年同期と比較して合計6社が順位を下げた。ヤンセンファーマおよび参天製薬は2位下落、ファイザー、バイエル薬品、協和キリン、およびエーザイは1位下落となった。
- 上位20社のうちアストラゼネカおよび日医工が新たに加わり、アツヴィ(前年同期比44.3%減)および大日本住友製薬(3.3%減)が上位20位から外れた。